

学び意欲 強いからだ ゆたかな心

平成30年度 五福小だより

平成30年7月11日(水) NO. 12

学校の再開

この度の大災害では、多くの方がお亡くなりになりました。ご冥福を心より願っております。また、多くの方が被災されました。お見舞い申し上げます。

7日に五福小学校も避難場所として指定され、多い時には300人を超える被災者の方を受け入れました。いまなお、多くの方が、体育館での生活を余儀なくされています。運動場には多くの車が止まり、子どもたちの学校生活にも影響が出ると思いますが、まずは、1学期の終業を無事に迎えたいと思います。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

学校を再開するにあたり、教員の方が通学路の点検を行い、現在の通学路で支障がないと判断しておりますが、お気づきの点がありましたら、お知らせください。また、児童の安全確保については、学校でできる限りのことをしたいと思います。

さて、今回の避難所の開設にあたり、五福小学区の保護者の皆様、地域の皆様の素晴らしさをあらためて感じているところです。

被災者の方が、バスで次々と搬送されるなか、子ども会の方々を中心に力になりたいという申し出があり、保護者の方の協力を得て、炊き出しの計画をすぐに始められました。市から、到着する食料が伝えられると、柔軟に対応されていました。市の支給食に加え、朝・昼にはみそしる、夕方にはカレーの炊き出しを行いました。平日になると保護者の多くの方が仕事に行かれるため、地区社協や水島おかみさん会・諸団体をはじめ地域の方々が、体育館の方へ駆けつけてくださいました。大変ありがとうございます。そして、中学生ノボランティアに混じって小学生もお手伝いをしてくださいました。8日は、応援物資も届き、その受け入れ整理作業もしました。

思いのこもった支援物資が次々と届くことは大変ありがたいのですが、これまでの大きな災害のときに起こった教訓がなかなか生かせず、SNSの拡散により受け入れる量が多すぎて受け入れが困難になり、他の



学校に再配達するという事になりました。SNSの影響をあらためて感じた次第です。

安否確認の電話の連絡も次々に入りました。家族や親戚・友だちなどへの親愛の気持ちを考えるよききっかけとなりました。

被害の全貌が明らかになるにつれて被害の大きさをあらためて感じました。

五福小学校では、今日から登校ですが、同じ倉敷市内でも19日まで休業日という地区もあります。私たちは、今、何をすべきなのかを問いかけられている気がします。